

2009年の旅行動向見通し

経済環境の悪化の一方、

円高進行、燃油・ガソリン代低下、春秋2度の5連休と好環境も！

—「ニューツーリズム」、「まちじゅう観光」の伸展で近間のドライブ旅行が人気に

国内旅行人数は2億9,325万人(前年比▲1.1%)

—ショッピングやグルメを堪能！ヨーロッパや近隣アジアは増加に

海外旅行人数は1,530万人(前年比▲4.4%)

—訪日外国人数は830万人(前年比▲0.6%)

JTBは、2009年の旅行市場についての見通し調査の結果をまとめた。この調査は、1泊以上の日本人の旅行(ビジネス・帰省を含む)と訪日外国人について、各種経済動向予測、旅行消費者購買行動調査、観光関連動向等から推計したもので、1981年の調査以来29回目となる。推計した2009年の旅行市場規模は次のとおり。

	2009年の見通し		2008年の推計		2007年度
	見通し数値	前年比	推計	前年比	実績推計
総旅行人数(延べ人数)	3億 855万人	98.7%	3億 1,251万人	98.5%	3億 1,714万人
国内旅行人数	2億 9,325万人	98.9%	2億 9,651万人	98.9%	2億 9,981万人
海外旅行人数	1,530万人	95.6%	1,600万人	92.3%	1,733万人
平均消費額					
国内旅行平均消費額	32,900円	97.5%	33,760円	98.8%	34,170円
海外旅行平均消費額	295,000円	93.1%	316,900円	103.7%	305,600円
旅行総消費額	14兆 1,600億円	93.9%	15兆 800億円	97.0%	15兆 5,400億円
国内旅行消費額	9兆 6,500億円	96.4%	10兆 100億円	97.8%	10兆 2,400億円
海外旅行消費額	4兆 5,100億円	89.0%	5兆 700億円	95.7%	5兆 3,000億円
平均旅行回数	2.30回	▲0.21	2.51回	▲0.09	2.60回
訪日外国人数	830万人	99.4%	835万人	100.0%	835万人

* 国内旅行消費額は、自宅を出発してから帰宅するまでの総費用。現地での買物代、食事代等現地消費分を含む。

旅行前後の消費(衣類など携行品の購入費用、写真現像代など)は含まない。

* 海外旅行消費額は、旅行費用のほか現地での買物代、食事代等現地消費分を含む。旅行前後の消費(衣類など携行品の購入費用、写真現像代など)は含まない。

* 訪日外国人旅行は、人数予測のみで消費額は算定していない。

2009年の環境

1. 経済環境の悪化

米国の金融危機に端を発した世界的な経済環境の悪化は、人々の交流にも悪影響を及ぼすと見られている。我が国のレジャーマーケットは、経済的側面もさることながら、生活全般の先行き不透明感から旅行を見送ったり、世間体を気にして旅行に出かけることを逡巡したり、と言う心理的な側面が旅行消費活動に影響を及ぼしつつある。ビジネス需要は、新たなマーケット開拓をめざすビジネスマンの交流は引き続き活発であると思われるものの、設備投資の縮小や企業の経費削減の進行などにより減少することが予想される。

2. 円高、燃油・ガソリン代の低下、春秋2回の5連休

一方で日本人の旅行環境に好影響を与えるのが円高、燃油・ガソリン代の低下、及び春と秋に2度ある5連休だ。

(1) 円高の進行

09年を通して現在の為替相場が続くかどうかは不透明だが、米国ドルのみならず主だった旅行先の通貨に対し08年末の為替レートはその1年前より25%～70%程度の円高となっている。海外旅行費用に占める割合は、円建てである航空運賃が最も大きいため、この円高が旅行費用の大幅な値下がりにはつながりにくいものの、旅行先の食事代やショッピングには相当の効果が見込まれ、旅行者の心理改善が期待される。

(表-1) 年末の為替相場(東京外国為替相場/T.T.S 三菱東京UFJ銀行調べ)

	2004年末	2005年末	2006年末	2007年末	2008年末
1 米国ドル	105.21	119.07	120.11	115.15	92.03
1 英国ポンド	203.81	207.74	237.66	231.90	135.83
1 ユーロ	143.11	141.33	158.00	168.16	129.46
1 オーストラリアドル	82.68	88.45	96.16	102.18	64.61
100 韓国ウォン	10.22	11.96	13.02	12.36	7.47
1 香港ドル	13.82	15.66	15.75	15.05	12.18

(2) 燃油サーチャージの低下

08年の異常ともいえる高騰から一転し、昨年秋から原油価格が急落したことにより、4月以降の燃油サーチャージは廃止または大幅値下げになると予想されており、海外旅行には追い風となる。

旅行費用のほかに40,000円～66,000円も別途支払わなければならなかった遠距離のヨーロッパやオセアニア、米国方面への旅行にはその推移が特に期待されている。

(表-2) 日本航空の燃油サーチャージの推移(1区間あたり、単位:円)

日本発	2005年 2月	2006年 10月	2007年 4月	2007年 10月	2008年 1月	2008年 4月	2008年 7月	2008年 10月	2009年 1月
ヨーロッパ	2,500	13,600	12,000	13,000	17,000	20,000	28,000	33,000	22,000
北米	2,500	13,600	12,000	13,000	17,000	20,000	28,000	33,000	22,000
オセアニア	2,500	13,600	12,000	13,000	17,000	20,000	28,000	33,000	22,000
ハワイ	2,500	10,000	8,700	9,900	12,500	14,000	20,000	22,000	14,500
シンガポール	1,800	10,000	8,700	9,900	12,500	14,000	20,000	20,000	12,500
中国	1,000	4,800	4,100	4,700	5,900	6,500	8,500	10,500	6,000
韓国	500	2,000	1,700	2,000	2,400	2,500	3,500	4,000	2,500

(3) ガソリン価格の大幅な下落

数年にわたり値上がりが続いていたガソリン代は、07 年後半から 08 年の夏場にかけて急騰し旅行者の車離れを引き起こした。しかし、その後急落し 08 年末の価格は 4 年前をも下回る水準になっている。昨年上期の狂騒が未だ心理面に余韻を残している感もあるが、手軽にドライブに出かける若者やファミリー層にとってはかつてない好機となっている。

(表-3)レギュラーガソリン 1 リットル当たり全国平均小売価格

(出典:財団法人日本エネルギー経済研究所 石油情報センター)

2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	
12月20日	12月26日	12月25日	12月25日	8月4日	12月22日
118.6円	128.9円	134.2円	155.0円	185.1円	110.6円

(4) 5 連休が春と秋に 2 回

「国民の祝日に関する法律」により今年(2009年)は5月のゴールデンウィークとともに9月にも5連休が登場する。敬老の日と秋分の日に挟まれた9月22日が国民の休日となるもので、24日(木)、25日(金)を休めば9連休となる。5月のゴールデンウィークも4月30日(木)、5月1日(金)または7日(木)、8日(金)を休めば9連休となる。遠距離への旅行は言うまでもなく国内旅行にも利用価値は高く、5月と9月は大型連休で旅行が賑いを見せるのは間違いない。

春のGW(4~5月)

日	月	火	水	木	金	土
						4/25
26	27	28	29	30	5/1	2
3	4	5	6	7	8	9
10						

秋の連休(9月)

日	月	火	水	木	金	土
						9/12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27						

2009 年の見通し

(国内旅行)

全体としては経済環境の悪化の影響を受け、1泊以上の国内旅行人数は2億9,325万人(▲1.1%)、平均消費額も32,900円(▲2.5%)と減少するものと推計。ただし、ガソリン代が今の水準近くで推移すれば、ドライブ旅行者は増加する可能性が高い。イベントが開催される横浜や新しいアトラクションがオープンする東京ディズニーリゾート®を中心とした都市型観光、さらには目的性やテーマ性が強い旅行は経済動向とは関係なく賑いを見せるものと思われる。

ツーリズムは経済波及効果が高く、わが国の経済、人々の雇用、地域の活性化に大きな効果を発揮するものである。内需拡大の観点からも国内旅行の活発化が望まれるところだ。

・横浜開港 150 周年記念「開国、開港 Y150」(4 月 28 日～9 月 27 日)

1859 年(安政 6 年)の開国・開港から 150 周年を迎える横浜で、「未来への出航」をテーマに博覧会「開国博 Y150」が開催される。期間中に繰り広げられるイベントのみならず、横浜の街全体を楽しめるプランも計画。横浜の魅力を体験する「まちじゅう観光」へ発展が期待されている。4 月 15 日に新しいアトラクションが開業する東京ディズニーリゾート®や東京と組み合わせた都市型観光に人気が集まりそうだ。

・「ニューツーリズム」の展開、「まちじゅう観光」の伸展でファミリー層を中心にドライブ旅行拡大も

産業観光、エコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、ロングステイなどテーマ性が強く、人や自然とのふれあいなど体験的要素を取り入れた新しいタイプの旅行(ニューツーリズム)への取り組みが進みつつあり次第に人気が出てきている。さらに、その地域ならではの歴史や伝統、文化、生活、食を五感で味わうために地域にじっくり滞在する旅行者が増えつつある。従来型観光と違うこの観光スタイルは「まちじゅう観光」と呼ばれ、長崎の「さるく」や別府の「オンパク」に典型としてみられるもの。個人旅行の多様性にマッチングしており、ガソリン代の低下に伴い手軽に車を利用して出かけるファミリー層を中心に拡大する可能性がある。

(海外旅行)

全体としては、ビジネス需要の減少が想定されることから、海外旅行人数は 1,530 万人(▲4.4%)、平均消費額は燃油サーチャージの低下、円高による旅行先での消費金額の低下に伴い 295,000 円(▲6.9%)と減少するものと推計。しかし、2009 年は景気変動要素があまりにも大きいため、その推移によって海外旅行人数は変わる可能性もある。

・ショッピングやグルメを堪能しに近隣アジアやヨーロッパへ。LCC 就航でオセアニア人気も

韓国へはウォン安の効果で旅行者が増加する模様だ。ショッピングやグルメを楽しむ旅行者で当面は好調に推移するものと思われる。また、ヨーロッパと中国の文化が混在する香港・マカオ、都市とリゾートとアジアを満喫できるマレーシアなどへの旅行者は引き続き堅調に推移するものと思われる。

また、4 月以降の燃油サーチャージが廃止もしくは大幅値下げとなればヨーロッパへの旅行が復活する可能性が高い。合わせて LCC(ローコストキャリア)のジェットスターが成田空港に就航したことにより、オーストラリアは燃油サーチャージの推移によっては徐々に増加に転じる可能性がある。

・交流年イベント、チャーター便利用が活発に

2009 年は日本香港観光交流年、日メコン交流年(カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナム)、日本・ドナウ交流年(オーストリア、ハンガリー、ブルガリア、ルーマニア)が設定されており、交流イベントの実施や情報の流通によってはそれぞれの国への旅行が注目される可能性がある。異文化交流を図ることは、多様な価値観への寛容性や想像力を養うとともに精神的な豊かさを醸成するものである。国際交流は、個人にとっても社会にとっても大いに意義深い活動であることを再認識したいところだ。

また、昨年末にチャーター規制が緩和されたことにより、販売がさらに柔軟にできるようになった。チャーター便にかける期待は中央・地方ともに強く、これらの方面へのチャーター便が設定されプロモーション活動が行われれば新たな需要創出につながる可能性が強い。

(訪日旅行)

このところ順調に伸びてきていた訪日旅行人数は、世界的な経済環境の悪化と急激な円高の影響を受け減少に転じており、年初しばらくはこの状況が続くものと思われる。

しかしながら、観光庁の施策等が実現されることによる効果、中国からの訪日旅行者増への期待が強いことなどから、年間を通しての旅行人数はほぼ今年並みの 830 万人(▲0.6%)と推計。

2009 年の年間予定

<ul style="list-style-type: none"> ・日本香港観光交流年 ・日メコン交流年(日本とメコン地域諸国【カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナム】との交流年) ・日本・ドナウ交流年 2009(「日本・オーストリア外交関係開設 140 周年」、「日本・ハンガリー外交関係開設 140 周年・外交関係再開 50 周年」、「日本・ブルガリア外交関係再開 50 周年」及び「日本・ルーマニア外交関係再開 50 周年」など、日本がドナウ川流域 4 カ国との周年を迎える年にあたり、日本とこれら 4 カ国との関係を更に緊密なものにするため、一年を通して各種記念事業を実施) ・日墨交流 400 周年(メキシコから日本へ) ・日蘭通商 400 年 ・日・フィンランド修交 90 周年 ・日・ギリシャ修好 110 周年 		
1 月	4 日(日) 19 日(月) 24 日(土)	燃油サーチャージ 1 年 9 カ月ぶりに値下げ 東京ディズニーリゾート®25th アニバーサリー・グランドフィナーレ「ドリーム・ゴーズ・オン」(～4 月 14 日) 飛騨白川郷ライトアップ(1/31、2/1、2/7、2/8、2/14、2/21 の合計 7 回開催)
2 月	6 日(金)	第 11 回小樽雪あかりの路(～15 日)
3 月	1 日(日) 2 日(月) 5 日(木) 13 日(金) 20 日(金)	シャングリ・ラ ホテル東京開業(東京駅に隣接した丸の内トラストタワー本館に開業するラグジュアリーホテル) FIS フリースタイルスキー世界選手権猪苗代大会(～3 月 8 日) '09 ワールドベースボールクラシック(WBC～23 日) 第 15 回ホノルルフェスティバル(～15 日) 阪神なんば線開通(阪神三宮～近鉄難波～近鉄奈良駅が結ばれる) 「キッザニア甲子園」ららぽーと甲子園に開園
4 月	15 日(水) 28 日(火)	東京ディズニーリゾート®NEW アトラクション「モンスターズ・インク“ライド&ゴーシーク!”」オープン 「横浜開港 150 周年記念 開国、開港 Y150」(～9 月 27 日) 世界卓球選手権横浜大会(～5 月 5 日、横浜アリーナ)
5 月	ゴールデン ウィーク	ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭 2009(東京国際フォーラム)
6 月	4 日(木)	富士山静岡空港開港予定
7 月	1 日(水) 22 日(水)	函館開港 150 周年(7/1 記念式典、8/8～16 メイン事業開催) 46 年ぶりの皆既日食(屋久島、種子島南部、トカラ列島、奄美大島北部、喜界島などで)
8 月	21 日(金) 22 日(土)	ハワイ州 州制 50 周年 水都大阪 2009(～10 月 12 日)
9 月	19 日(土) ～23 日	秋の5連休(敬老の日 21 日と春分の日 23 日に挟まれた 22 日が休日に)
10 月	1 日(木)	中華人民共和国建国 60 周年
11 月	14 日(土)	アジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会議(～15 日、シンガポール)
12 月		京浜急行、東京モノレール羽田空港国際線ターミナル駅開業予定

2008 年の推計

【国内旅行】

・人数：国内旅行人数は 2 億 9,651 万人(前年比▲1.1%)と推計。

2008 年の国内旅行は、年初からのガソリン代の高騰さらには米国の金融危機に端を発した経済環境の悪化、先行き不安感の等の影響を強く受けたことなどにより全体としては減少した。

開業 25 周年を迎え様々なイベントが繰り広げられた東京ディズニーリゾート® 関連消費は、東京ディズニーランド®ホテルの開業や、「シルク・ドゥ・ソレイユ シアター東京」の開設とも相まって順調に推移した模様。ガソリン代が急落した 11 月以降は周辺で渋滞が多くみられるようになり、ファミリー層の根強い人気を感じられた。

・平均消費額：33,760 円(前年比▲1.2%)と推計。

【海外旅行】

・人数：海外旅行人数は 1,600 万人(前年比▲7.7%)と推計。

中国・四川省の大地震などの天災、原油価格の急騰による燃油サーチャージの追加徴収、世界的な経済環境の悪化など、2008 年の海外旅行は極めて厳しい状況で推移した。マーケットの成熟化と相まって 2007 年 5 月から連続して前年割れが続いており、ビジネス需要の後退が海外旅行者の減少局面にさらに拍車をかけた。

・平均消費額：316,900 円(前年比+3.7%)と推計。

【訪日外国人数】

訪日外国人数は 835 万人(前年比+0.0%)と推計。

6 月までは順調に推移した訪日外国人旅行であったが、円高の進行及び世界的な経済環境の悪化の影響を受け 8 月以降前年と比較しマイナスに転じた。特に円高ウォン安の影響を受けた韓国からの旅行者の減少が大きい。

(表-2)

1997年～2008年の実績推計、2009年の推計数値

年	総旅行人数(延べ人数)(万人)			国内旅行 平均 消費額 (円)	海外旅行 平均 消費額 (円)	旅行総消費額(億円)			平均 旅行 回数 (回)	訪 日 外国人 数 (万人)
	国内旅行 人 数 (万人)	海外旅行 人 数 (万人)	国内旅行 消費額 (億円)			海外旅行 消費額 (億円)	訪 日 外国人 数 (万人)			
1997	34,170	32,490	1,680	38,540	366,600	186,800	125,200	61,600	2.71	422
	100.7%	100.7%	100.7%	101.2%	90.7%	98.2%	101.9%	91.4%	0.01	109.9%
1998	33,454	31,873	1,581	38,080	355,200	177,600	121,400	56,200	2.64	411
	97.9%	98.1%	94.1%	98.8%	96.9%	95.1%	97.0%	91.2%	▲ 0.06	97.4%
1999	33,604	31,968	1,636	37,390	342,100	175,500	119,500	56,000	2.65	444
	100.4%	100.3%	103.5%	98.2%	96.3%	98.8%	98.4%	99.6%	0.01	108.0%
2000	34,326	32,544	1,782	36,940	312,300	175,900	120,200	55,700	2.71	476
	102.1%	101.8%	108.9%	98.8%	91.3%	100.2%	100.6%	99.5%	0.06	107.2%
2001	33,840	32,218	1,622	36,500	293,000	165,100	117,600	47,500	2.66	477
	98.6%	99.0%	91.0%	98.8%	93.8%	93.9%	97.8%	85.3%	▲ 0.05	100.2%
2002	34,042	32,390	1,652	35,550	293,800	163,600	115,100	48,500	2.67	524
	100.6%	100.5%	101.8%	97.4%	100.3%	99.1%	97.9%	102.1%	0.01	109.9%
2003	33,781	32,451	1,330	35,590	300,800	155,500	115,500	40,000	2.65	521
	99.2%	100.2%	80.5%	100.1%	102.4%	95.0%	100.3%	84.1%	▲ 0.02	99.4%
2004	33,036	31,353	1,683	35,660	292,600	161,000	111,800	49,200	2.64	614
	97.8%	96.6%	126.5%	100.2%	97.3%	103.5%	96.8%	123.0%	▲ 0.00	117.9%
2005	32,256	30,516	1,740	35,600	294,500	159,900	108,600	51,300	2.62	673
	97.6%	97.3%	103.4%	99.8%	100.6%	99.3%	97.1%	104.3%	▲ 0.02	109.6%
2006	31,794	30,041	1,753	34,310	297,200	55,200	103,100	52,100	2.60	733
	98.6%	98.4%	100.7%	96.4%	100.9%	97.1%	94.9%	101.6%	▲ 0.02	108.9%
2007	31,714	29,981	1,733	34,170	305,600	155,400	102,400	53,000	2.60	835
	99.7%	99.8%	98.9%	99.6%	102.8%	100.1%	99.3%	101.7%	▲ 0.01	113.9%
2008	31,251	29,651	1,600	33,760	316,900	150,800	100,100	50,700	2.51	835
	98.5%	98.9%	92.3%	98.8%	103.7%	97.0%	97.8%	95.7%	▲ 0.09	100.0%
2009	30,855	29,325	1,530	32,900	295,000	141,600	96,500	45,100	2.30	830
	98.7%	98.9%	95.6%	97.5%	93.1%	93.9%	96.4%	89.0%	▲ 0.21	99.4%